

	評価項目	取り組み目標	2022年度自己評価			2022年度 評価 委員 平均	関係者 評 価	評価委員の意見等	
			具体的な取り組みと改善点等		平均				評価
1	学校運営 管理者	学校は、管理者が教育目標の達成に向けた学校運営をしている	建学の精神に基づいた豊かな人間性と強固な基礎学力を持ち自ら学ぶ生徒を育成する。中長期計画 2021-2025に基づき策定したスクールミッションとアドミッション、カリキュラム、グラデュエーションの3つのポリシーに沿った教育を行う。	自主性、主体性を持って学習・生活に取り組むことのできる生徒の育成を目標に策定したスクールミッション、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づき教育活動を展開した。さらに新カリキュラムに使い、SDGsの観点から総合的な探求の時間のプログラムとコース制の検討を行った。国や県が定めるガイドラインに沿って生徒、教職員の安全安心を最優先し感染予防対策に最大限の取り組みをした。	5.0	A	4.9 A	保護者の声をしっかり受けとめてくれている。	
		学校は、保護者の意見や要望を教育活動に取り入れる努力をしている	アンケート調査を実施し、保護者面接、PTA役員会や懇談会など、情報を収集し共有する機会を増やし、生徒や保護者の視点に立った健康と安全に配慮した学校運営を行う。校務支援ソフトBLENDを活用し、学校と家庭との連絡や通信を行う。	アンケートや生徒や保護者からの意見等の情報を基に、各校務分掌、事務室、学年会、教育相談、スクールカウンセラーと連携し検討結果を迅速に教育に反映した。アンケート等で要望の多かった設備面についても改修計画を立て準備を整えた。緊急を要する案件には、校務支援ソフトBLENDやHPを用いて素早い対応を行った。	4.6	A			
		学校は、授業公開など保護者や地域の方に情報提供をしている	授業参観会、保護者懇談会、三者面談、部活動保護者会等を開催し情報共有に努め、HPやBLEND、絆ネット等用途に合わせた複数の連絡ツールから情報を発信する。HPを頻繁に更新し、玄関掲示板やイベントを通じて情報発信に努める。	新聞掲載、HPの活用、チラシ、商業施設の掲示板、TVコマmercialによって情報発信を強化してきた。HP、ツイッター、インスタグラム等を頻繁に更新し情報の発信と収集に努めた。BLENDを活用して保護者との情報共有に努めた。	4.6	A			
2	募集活動 広報部	定員の確保に向け、時代の要請にあった教育を広報できている	従来より学校が有しているメリットに加えて、時代の求めに呼応する学校の魅力をメディア、動画、DVD、SNSの発信等の方法を用いて効果的に広報する。登録者数を増やすための募集広報イベントの実施と効果的な運営に努める。アドミッションポリシーに即した入試方法や奨励補助を検討する。	学校説明会、オープンキャンパス等を通じて、進学実績、ICT、英語教育、総合的な探求の時間、私学の優位性等、特色ある教育を丁寧に説明した。各種イベントにオンライン中継も加え、時代の要請に応えた。Web出願制度により事務手続きの効率化と出願手続きの利便性を高めた。英語特待や資格特典等の入試制度の改訂により、学校の特徴がいっそう明確になり、アドミッションポリシーに合った受験生の獲得が可能となった。	4.6	A	4.4 B	私立高校就学支援金の情報をHPでPRする。常に新しい広報活動を目指してほしい。	
		限りある予算の中でも本校のPRを十分に校外にアピールできている	HP、パンフレット、チラシ、メディア、SNS等を最大限に活用した上で、小中学校・塾訪問の場所と回数を増やし広く広報活動を行う。私学フェア、私学展を通し広く本校の価値を伝え効果的な広報を行う。	各種データから割り出した重点校や重点地区に向けて、教育顧問を増員し小中学校や塾への訪問回数を増やし担当者との信頼関係の構築に努めた。名簿登録者数を増やすために、イベント数や保護者向けプログラムを増やし、受験生紹介制度と友だち紹介制度を活用した。学校の雰囲気と教育内容をより深く理解してもらうために、イベントでは在校生との交流の機会を増やした。コロナで中止されていた中学入試私学フェアと高校入試私学展も再開され、新規登録者の獲得ができた。	4.9	A			
3	宗教教育 宗教部	「隣人愛」という建学の精神に基づいて、やさしく心豊かに生きる女性を育てている	キリスト教主義教育を土台とした英和のミッションを遂行するため、礼拝や聖書の時間を中心に学院生活のあらゆる場面で、建学の精神について語りかけ問いかけ、自ら考え行動する機会を提供していく。	「愛と奉仕」の学院聖句をスクールミッションに落とし込み、聖書に基づく教えを生徒、教職員が日々の学院生活の中で体現していけるような体勢を強化した。朝の礼拝ではキリスト教員の説教に加え、近隣の教会牧師や英和学院大学の先生方、生徒による話や発題の機会を増やし、建学の精神を軸とした心の教育の醸成に努めた。	4.6	A	4.9 A	4.9 A	
		心の成長を醸成する宗教行事が充実している	礼拝や修養会、早朝祈禱会等の宗教行事の内容の充実を図り、未来の人と社会に仕える心、平和について考え表現する心を醸成する。	行事の精選を図りつつ心の教育を推進した。大切なものは残しつつ引き続き行事の整理を行った。礼拝の時間も生徒による発表の機会を増やし全校生徒で平和についての思いや取り組みを共有し、共に学び合う場を設けた。	4.9	A			
4	学習指導 教務部 各教科	学校は、体系的な学習システムを構築し、学力向上をはかっている	新指導要領の移行に伴い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を伸ばす学びを改訂したカリキュラムに基づいて実践する。シラバスを検討し、学習年間計画、指導法、観点別評価法を全教科で研究し実践する。	コロナ禍で獲得したオンライン技術を深化させ授業や礼拝で活用した。英検対策講座の充実、英検や文章検定の奨励等、基礎から発展学習まで個別最適化教育に立つて学力向上のための取り組みを行った。新カリキュラムを策定し、評価方法の検討を行った。コース制と総合的な探求の時間の内容の再検討を行った。最新の校務支援システムを導入し校務全般の効率化、最適化の準備を整えた。	4.6	A	4.6 A	TOEFL等取り入れ海外の大学進学もいっそう強化する。オンライン授業は担当教師によって習熟度に差があったのでは。入学時の英検取得者と未取得者へのフォロー。	
		学校は、学習内容や基礎・基本の定着徹底を図っている	定期テストを廃止し、授業を中心とした家庭学習を明確化し、小テストや単元確認テストを通して基礎学力の定着を図る。朝読書や日課を組み込み読解力の育成に努める。各種検定対策講義サポート体制を整え、成果の可視化に努める。	定期テストを廃止し、小テスト・単元テストを中心に授業と家庭学習の充実を図り基礎学力の定着を目指す体制を整えた。オンラインによる小テストや授業アンケートを実施し、生徒の主体性を重視した放課後の補習を実施した。	4.5	A			
		本校の教員は、主体的かつ協働的で、知識と技能の向上を図り、理解力・判断力・表現力を養う授業を行っている	「リベラルアーツ」とSDGsの探求を学びの基本コンセプトに定め、ICTを活用し、知識・技能を習得し、思考力、表現力を鍛え、生徒主体の協働的学びを展開する。観点別評価法の効果的な運用を行う。	全教科、年間目標を定めて、主体的、対話的、協働的な深い学びを授業で展開する研究を継続した。小テスト、単元テスト、実力テストによる観点別評価方法を教職員研修会等で取り上げ各教科で研究した。学力の3観点に基づく教育を推進するため、観点別評価を導入し評価方法を整えた。	4.6	A			
		本校の教員は、一人ひとりを大切に授業を行っている	授業の理解度を高め、小テストや単元テストで個々の理解度を深め、双方向型のICTアプリ等を活用し、主体的に学ぶ態度を育成する。スタディサプルの指導、補習や個人指導を行う。奨励補助制度に再検討を加え、生徒の主体性を伸ばし、新しい評価方法に沿った形に刷新する。	「未来を描き、見つめ、つなげる」本校のスクールミッションに従い、学びの多様性を視野に「子ども主体で、学び合い、一人も見捨てない」「個別最適化教育」を行うように努めた。従来奨励賞に加え、メイバグ賞（学習部門、英語部門、芸術部門、体育部門、SDGs部門）を創設し、奨励補助制度を拡充した。	4.9	A			
5	特別活動 教務部 生徒部	学校は、生徒の個性を伸ばし、学校生活を豊かにするための工夫をしている	多様性と包括性のあるグローバル教育の観点から、スタディーツアー、多彩な学校行事、生徒会活動、クラブ活動等を通して、生徒自らが考え行動する機会を提供し、生徒の自主性、主体性を醸成し、個性の伸張を図る。	さまざまな学校行事を計画・準備し、生徒一人ひとりの個性が発揮される場を整えた。コロナ感染防止対策のために規模を縮小して実施した行事もあった。生徒会を中心に校務検討委員会を立ち上げ、全生徒からの意見や考えを吸い上げ校則についての再検討を行った。部活動と文科系や県市のガイドラインに従い、安全を最優先させた活動を行った。	4.6	A	4.6 A	4.9 A	
		学校行事には多くの生徒が関わり、多様な体験をさせる工夫をしている	持続可能な社会を実現するためにSDGsの視点を取り入れ、総合的な学習・探求の時間、課外活動、修養会、施設訪問、文化祭等の行事への生徒の積極的な参加を促す。総合的な探求の時間を通して、赤十字のボランティア活動に参画し、社会問題解決について考える機会を持つ。	生徒はそれぞれの行事に積極的に参加し、充実した学校生活を通して個々の成長を図った。生徒会による赤い羽根の募金活動等のボランティア活動、台風15号で被災した家庭への献品活動やウクライナへの支援募金、トルコ地震への支援募金活動も自主的に取り組むなど、建学の精神が醸成された行動が見られた。	4.8	A			
		生徒会活動が活発に行われ、生徒が熱心に取り組んでいる	生徒会担当教師を増員し、多様性と包括性が求められる社会での共生共存できる力を育むことを目指して、体育祭や文化祭で、生徒会を中心に他者へのことを考えながら自主的な活動を行うよう指導する。各種共同募金や訪問活動、ボランティア活動に取り組む。	生徒による英和スタンダード、教師による英和スタンダードを守り、基本的生活習慣の定着とマナーの向上に努めた。体育祭の競技や文化祭の装飾や文化祭での中庭での企画を立案し実施した。創立135周年、セーラー服100周年記念のイベントにおいても生徒部を中心に、生徒の自発的な参加を呼びかけ、PTA、同窓会、後援会の協力のもと成功裏に実施することができた。	5.0	A			
6	生活指導 生徒部 教育相談 学年会	学校は、生活指導の方針を生徒や保護者・地域に分かりやすく説明している（保護者会など）	学年便りや生徒部通信等を通じ、学院の指導方針や生活指導について理解と協力を求める。学校生活についてのアンケート結果を生徒、保護者に通知し、HPに掲載する。	生徒部通信や保健便り、学年便りを発行し、BLENDやHPを通じて、健康管理、安全予防対策、生活指導の方針を生徒・保護者に伝えた。アンケート結果を精査し、関連部署で確認し迅速な対応を行った。制服、制カバン、サブバッグについて検討を開始した。	4.9	A	4.7 A	4.7 A	
		学校は、生徒が基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行っている	健康観察カードの記入と提出、手指消毒の徹底を習慣化を図る。あいさつを中心としたマナー指導と期限を守る指導を全教職員が粘り強く継続する。衣替え調整期間を設け、気温や天気に応じて自主的に服装を調節できるようにする。	英和スタンダードの実践項目の挨拶や整理整頓、提出期限の遵守等の指導を生徒会、全教職員で粘り強く実施した。健康観察カードをケルグルフォームを活用しデジタル化し効率化を図った。衣替え調整期間を設け、天候状況や個人の体調に合った選択ができるようにした。	5.0	A			
		学校は、生徒が犯罪に巻き込まれないような指導をしている（セーフティー教室、薬物乱用防止教室など）	防犯講座・薬学講座・情報モラル講座・交通指導等を実施し、必要と思われる指導は定期的に行い繰り返して行う。BLENDを通して緊急を要する情報の発信を行う。	警察署と協力を得ながらネット社会やネット使用上の危険性について学んだ。静岡大学との協力体制の元、年数回積み上げ式の情報モラル講座を行い防犯意識の向上を図った。今後も継続的に指導する。	4.5	A			
		学校は、生活指導において家庭、地域や関係諸機関と緊密な連絡を保っている	「個別最適化教育」を実践し、課題の見られる生徒やその保護者にはスクールカウンセラーや教育相談で実態の把握に努め問題解決を図ると共に、必要に応じてスクールソーシャルワーカー等の専門機関との連携をとる。	教育相談とスクールカウンセラーを中心に情報をまとめ、守秘義務に配慮しつつ情報を共有化している。必要に応じて外部機関と連絡を取り合い、適切な指導を行うことができた。スクールカウンセラーを招き研修会を行い、より実態に即したサポート体制の構築に努めた。	4.6	A			
		学校は、生徒の抱える様々な課題や悩みについて対応している	生活ノートや個人面接、通信アプリ、学校生活についてのアンケート等によって知られる課題や悩みに対応し、相談、連絡、報告の徹底に努める。母親勉強会や思春期講座等、保護者への学習会の機会も適宜設ける。	学年教師、養護教諭、カウンセラーが連絡を密にし、学年主任会、企画運営委員、職員会議で情報を共有し、必要に応じて管理職を交えたケース会議等を通じた適切な指導を行った。生活ノートやBLENDおよびICTの双方向型アプリを用いて生徒の心身の状態把握に努め対応した。	4.6	A			
		学校は、進路指導の方針を生徒や保護者に分かりやすく説明している（保護者会・進路説明会など）	中学よりカリキュラムやコース別の特性など学校の進路指導について説明していく。懇談会や保護者会に加え、常時必要な情報は速やかに提供する。	進路・キャリアガイダンス、外部講師による講演を積極的に実施している。総合的な探求の時間においても各学年に応じたキャリア教育について学ぶ機会を持った。中学3年生のスタディーツアーではSDGsの観点から地域が抱える課題研究を行い、その成果を文化祭で発表し、卒業論文の研究発表に繋げた。	4.8	A			
7	進路指導 進路部 学年会	学校は、進路情報を必要に応じて提供している（進路説明会など）	保護者会や個別面談の折に進路情報を提供し、学年に応じた説明を丁寧に伝えていく。校内大学説明会や進路講演会等を実施し、広く情報提供に努め進路意識の高揚と醸成を図る。	中学から高校まで段階的に必要な学びの機会を組み入れて実施している。校内大学説明会を再開し、大学についての情報を直接得る機会を設け多数の生徒と保護者が参加した。	4.9	A	4.8 A	保護者の最大の関心事であり相当な情報開示を要する。	
		学校は、進路相談の充実など生徒一人一人を大切に指導を行っている	担任や進路部長は模試結果などデータに基づく面接や進路指導を適宜行い、進路実現のためのサポートに努める。	必要に応じて、担任が出席してデータに基づく進路指導を行うことができる体制を整えている。進路部、学年会を中心に個別指導を充実させている。生徒は自分に合った入試方法を自主的に研究し、自分に適した方法で受験し成果をあげた。	5.0	A			
		学校は、望ましい勤労観や職業観を身に付ける指導を行っている（職業調べ、職場体験など）	将来を見据えた職業観を養い、高校では個々に応じた職業調べを指導しキャリア教育を進める。総合的な学習・探求時間を通じ、SDGsと関連付けたキャリア教育を行う。	中学3ガイダンス・高1ガイダンス・高2の総合的な探求の時間では、SDGsの観点から、自らの将来を描き、めざし、つなげる機会を持った。カリキュラムポリシーに合った総合的な探求の時間の教材の検討を行った。	4.5	A			
8	危機・安全 危機管理	校内は安全に管理されている	常時防犯カメラや作動、生徒登校後の施設、警備会社や警備員による施設等を日々チェックして徹底する。BLENDを通じ教員連絡、保護者連絡、生徒連絡で必要情報を共有する。	感染対策委員会を定期的に開き、その時々状況に応じて、生徒の体調管理から行事の安全運営に至るまで、熟慮を重ね学校生活が安心安全に送られるように対策を講じた。校舎内の備品の不良箇所は適宜、修繕、交換など対応した。	5.0	A	4.9 A	4.9 A	
		学校は、防災・安全対策を保護者や地域の方に十分に説明している	HP、BLEND、絆ネット等の情報配信サービスを利用して、素早く適切な情報提供や連絡を行う。近隣の町内会長に学校関係者委員会を依頼し、情報を交換しつつ地域社会とのつながりを図る。	全生徒の保護者はBLENDに登録し緊急を要する事案に迅速に対応した。緊急事案や連絡はHPに掲載も行い情報の発信に努めた。感染防止対策として、必要に応じてイベントの規模縮小、人数制限等を行った。	4.8	A			
9	施設・設備 事務部	学校は、施設・設備を整備し、不具合をすぐに修理している	校内の安全衛生面のチェックと改修に努め、備品の不備や空調・照明等に不具合があればすぐに対処する。トイレとロッカーの改修に着手する。	不具合箇所の発見と迅速な修理を行った。また、雨漏り対策として3号館屋上の防水工事を実施するとともに、Wi-Fi環境改善のため、アクセスポイントの増設を行った。更に台風15号により被害を受けた校舎の復旧工事と備品購入を行った。トイレ、ロッカーの改修に関しては、補助金の関係で次年度以降の対応となった。	4.8	A	4.6 A	2023年度はトイレの改修をする。	
		学校職員の生徒や保護者・来校者への対応は適切である	常に適切な服装と言葉遣いと態度で対応のできる教職員集団であるように努める。	電話や来客対応はことあるごとに職員に伝え、外部より良好な評価を得ている。新型コロナウイルス感染防止対策として前年度に引き続き来客の接遇場所の制限を行った。	5.0	A			